

『つなひき教室』に参加したよ！

おおた新聞 号外 25.6.23

～まさしくスポーツそのものだった
力で引くのではなく、気持を一つにして引く～

6月22日（土）の子どもセンターの行事は「つなひき教室」でした。
教えてくれたのは、現役チームとして活躍している「西山勝手連」（紀の川市貴志川町）と「Ns（エヌズ）」（和歌山市）の2チームの皆さん。
模範演技を見ると、これはもう遊びではなく、まさしく本格的スポーツそのものでした。



腰には太いベルトを付けます。これは斜めになり腰に大きな力がかかるため腰を守るためです。そしてつなひき用のシューズをはきます。このシューズの底にはギザギザのない柔らかいゴムが張られています。体育館で絶対滑らないための専用シューズです。まるでレーシングカーのスリックタイヤの様でした。

綱引き競技は8人対8人で、一番後ろのアンカー役は綱を体に巻きつけます。試合が始まり4メートル引き寄せると勝ちです。

やはり体重が重いと有利で、競技では8人の合計体重が男子では600kg、女子は500kgまでと決められているそうです。



教えてもらいながら、子どもたちそしてお父さんお母さんも参加しました。
基本は斜めに立ち、足で床を踏ん張ります。

そして力まかせに引くのではなく、声を合わせて全員の力の入れるタイミングをどれだけ一つにできるか、これが一番大切だとのことでした。

体力の強いチームが勝つのではなく、引く姿勢を整えて、引く気持を一つにするチームが勝つのだと、教えてくれました。

クラスの間もこうでありたいですね。



子どもたちと教えてくれたチームの人たち、子どもたちとお父さんお母さん、お父さんお母さんとチームの人たち等、何度も対戦しました。

1回対戦すると、子どもたちは力を出しつくしたのか、「疲れたー」と床にたおれこみます。でもまた立ちあがり何度も対戦しました。

秋の運動会までに、どれだけ強くなれるかな？

